

## 会員のみなさんへ

### 皆さんに「感謝」です

理事長 中川 忠宣

○ まず、3月25日の「退職を祝う会」をNPOの方々に開催していただいたことに心から感謝です。こうして無事・有意義だった教職の仕事の最後の、そして今後につながる活動を皆さんと一緒に出来ることを感謝しています。

しかし、その前に43年間という長い間、私を支えてくれた妻に感謝です。妻は典型的なA型で口うるさいくらいこまごまと気が付き、喧嘩もしましたが、私が外で恥をかかないような心遣いを十二分にしてくれました。私がこうして仕事をしてこれたのも妻のおかげと感謝です。

しかし、その前に私の父にも感謝です。3人の娘と私一人の息子でしたので、期待はしていたようです。小学生のころから山や海に一人で行って魚釣りや山芋掘をしていましたが、あまり口出しせず自由にさせてくれました。しかし、怒った時は激しく、田舎の「蔵」に閉じ込めて忘れられたこともありました。とても恐ろしい父でした。また、自分がなりたかった「教員」には、貧しい家庭では学校へ行かなかったようで、いつも私に「教員になれ！」を言っていました。そうした父の姿を見て「教員を目指しました。私の息子は、私の姿と私たち夫婦を見聞きして「教員になろう！」と決めたようです。小学校3年生までは体罰もしましたが、4年生からは体罰をしたことはありません。会話で通じる年だと思いました。39歳の息子は私を「恐ろしい！」とは感じていないようです。しかし、しっかりと自分の道を歩んでいるようです。

○ 天は一人の人間に、いくつもの長所や才能を与えてはくれないという意味の「天は二物を与えず」という諺がありますが、自分が目指せるもの、自分に得意なことは多くありません。自分の夢を子どもに

託し、今の自分をしっかりと生きていくことの喜びを多くの人から頂きました。そのためには「自分の思いを相手に語る」と「相手が語ることの本心をしっかりと受け止めること」の大切さをつくづく感じています。

皆さんに感謝しつつ、これからもNPO法人大分県協育アドバイザーネットの活動に頑張ります。

なお、現在の勤務は「大分大学COC+推進機構 特任教授」として、今までの研究室で仕事をしています。



## 「出会い」・「感動」・「学び」に感謝

地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会に参加して

川添公民館

赤峯 友子(3期生)



今年も梅の花咲く時期に開催される「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」に参加させていただきました。毎年活発に活動されている事例の実践発表に感動し刺激を受けています。今年は県内の地域づくりの活動実績の他に県外の先進的な取り組みが紹介されました。毎年報告の中に たくさんの「気付き・発見・学び」があり楽しみにしています。5月に篠栗で開催される生涯教育実践研究交流会にも参加させていただいていますが、この会で社会教育について学ぶことができました。それからは行っている活動の方向性が間違っていないか、ぶれていないか、これでいいのかを確認するために毎年参加しています。数年前からこれらの会に公民館長にも参加してもらい、公民館における社会教育のあり方を一緒に学んでいます。公民館の運営を行う館長と目的や方向性を一緒に確認したいと考えるからです。交流会ではたくさんの出会いがあります。

以前、探していた公民館の講座の講師と出会った際も、早速その場でお話をさせていただきました。館長と一緒に話が進めることができました。私にとって研修会は「出会い」と「感動」、「学び」、そして「情報交換」の貴重な場所です。問題解決のアドバイスをいただいたり、励ましていただいたりしています。毎年、社会教育に携わる同志のみなさんと再会できるのを楽しみにしています。



# 会員さんの活動紹介

## 「いきいき今津まちづくり協議会」の設立に関わって

中津市教育委員会 山本 健吾（第1期生）

市町村合併により行政区域が広域化しても埋没しない地域づくりをめざし、各地に地域住民で組織する「まちづくり協議会」が設立され、国からは少子高齢化、人口減少対策として、地方の自律的な活性化を促すため地方創生政策が打ち出されている。中津市においても長期的にみて人口減少のトレンドにあることには変わらず、特に周辺地域では少子高齢化、過疎化が進行している。中津市今津校区は中心部から離れているため、商業施設、医療施設、交通機関に乏しく、数々の地域課題を抱える周辺地域として指定され、行政の手が直接入るようになった。そのような中、住民にとって最も身近な公共施設である今津公民館は、手狭で老朽化しているにも関わらず、住民の笑顔、歌声が絶えない元気な公民館として存在しており、校区の活性化を目指し、各種団体や個人が様々な地域活動に積極的に参画している。しかし、それらの活動を支えてきた人材が年々減少し、活動に支障をきたすようになってきた。今後、この組織はどうなるのだろうか？この活動は持続できるのか？地域は持続できるのか？地域住民の一人である公民館長を通して、そんな不安が聞こえるようになった。そこで、まだまだ元気な公民館を拠点として、「われわれの地域は、われわれでつくり、育む」を合言葉に、行政に頼り切らない住民主導の地域づくりを行う組織を立ち上げることとした。今津校区では、学校支援、放課後支援のために公民館を拠点とした校区ネットワーク会議を組織している。この組織は、校区の自治会、学校関係者、PTA関係者、公民館利用者、各種地域団体からなっており、まさに校区のオールスターチームとなっている。その組織が基盤となり、他の住民を取り込みながら地域づくり活動ができるような新たなネットワークの構築を進めることとなった。まず、香川大学の清國先生をファシリテーターとして招き、2回の熟議を通して、住民アンケートをもとにした地域課題の掘り起こし、課題解決のための方策などを本音で話し合った。「若い人の今津への思いを聞くことができた。」「今津の自然環境について問題意識が高い人がいたが、自分も日頃から気になっていた。」「今まで知らなかったボランティア活動を知ることができた。」など、お互いを認め合う雰囲気の中で住民は結びつきを深めた。これらの取り組みを通して、自分たちの地域は自分たちでつくっていかなくてはならないという意欲や責任感、故郷を守ろうとする住民相互の仲間意識が醸成した。現在、新築に伴い名称を変更したコミュニティーセンターが事務局となり、地域課題ごとに6つの部会を設けて、熟議を重ねながら地域課題解決に向けて取り組んでいる。



(話し合いの様子)



(地域の祭り)



(ふれあいサロン開設)



(昔ながらに羽釜で飯を炊く)



(地域の美化作業)

## 人と本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい(結い)」

### パークプレイス大分「あおぞら図書館」～春の心温まる～絵本の読み聞かせ

2016年4月2日  
13時～16時～

2回目となるパークプレイス大分の読み聞かせに大分大学工学部3年高木日向子さんと教育福祉科学部2年中山真理子さんで行って来ました。今回は天気にも恵まれ、3Fシャングリラの芝生の上での読み聞かせができました。「春らしさやほっりのような心温まるようなものを！」という依頼を受け、桜の花の咲く中、大型絵本の「はらぺこあおむし」と「ぐりとぐら」や絵本「そらはさくらいろ」「ちょうちょうひらひら」など7冊の絵本を読みました。開放的な場所にもかかわらず、小さいお子さんたちがお話の世界に入り込み、絵本の絵を触りに来るお子さんもいました。楽しそうにしているお子さんたちをパパやママが、写真を撮る様子がとても微笑ましく、私までもが幸せな気分になりました。2年生の中山さんは、屋外での読み聞かせは初体験で、1回目は緊張したと言っていましたが、2回目はすごく楽しくて、機会があったらまた参加したいと言っています。次回は、6月4日13時からと16時からの2回を予定しています。お買い物ごたえ聞きに来ていただけると嬉しいです。(佐藤)



## 事務局よりお知らせ

### 2016年度定期総会開催の日程

日時:平成28年6月11日(土)14時～16時

会場:大分県立社会教育総合センター 2階研修室

※総会は、平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画を審議するだけでなく昨年からの取組みとして「会員のスキルアップ研修」を併せて開催いたします。今年は、幼稚園や学校で起こる困り事象にピアカウンセリング・ピアサポートの活動をしているところHappy代表の足利さんを講師にスキルアップ研修をします。

### 研修タイトル:「みんなみんなHappyになあれ」

研修1 講義:発達障がいのある子どもを持つ母たちのメッセージから子育てに関わる「協育」の在り方について

研修2 ワークショップ:困り体験プログラム

### 中国・四国・九州地区生涯教育実践交流会 第35回大会開催

日時:平成28年5月21日～22日

会場:福岡県立社会教育総合センター

※大分県の実践発表は、協育ネットの取組です。

また、2日目の特別企画に中川代表理事がご登壇されます。

参加者を募っています。ぜひ、大会へ参加しましょう。

(申込は090-8400-7645(安達)まで連絡をください)

熊本県を中心とする大規模地震発生により被災されました方々にお見舞い申し上げます。被災地の方々の1日も早い復興をお祈りしております。大分県も強い揺れが頻りに続き油断できない日々を送っていますが、どうかみなさまが笑顔で元気に暮らせるようお祈り申し上げます。